草野大悟 ―ひすとり―

●草野大悟、一本つまみ

（南日本新聞 ― 平成六年八月）

台湾生まれ、小一で引揚げ。玉龍高校卒後、明大を中退して文学座へ。薩摩なまり症候群でほとんど失語症に。だから渋谷駅のガード下で、イモ焼酎をひたすら飲んでいた。「名物の徳永のつけあげを百グラム買い、ビニールの袋の口を上に向けてポケットに入れ、指を突っ込み親指大のつけあげをつまんで口に放り込み、ホロ甘い魚の香りと故郷をゆっくり噛みしめる。」天文館に向かう。「もう一本つけあげを口に入れると、頭から身体から東京がそーっと逃げ出していく。」焼酎を飲みたい。店で「一本」注文する。「右手をポケットに入れて、ビニールの袋の口をすぼめクリクリとひねり、つけあげにさよならして『ゆでフカの酢ミソ』をください。」

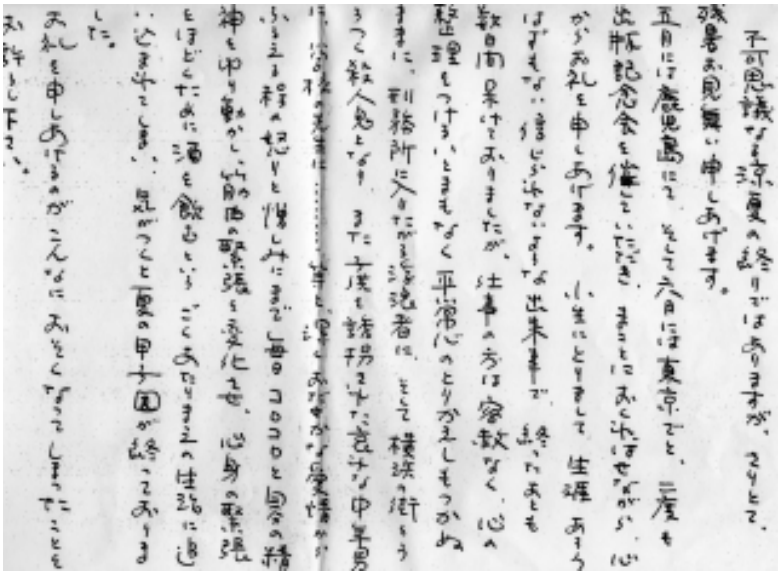
平成三年二月二十七日、わずか五十一歳での悲報に中学高校時代の同級生、萩原ルミ子さん（飲食店経営）は呆然とする。「来鹿すると必ず飲みに来て、お酒が入ると方言で『鹿児島が故郷で良かった』と言ってました。」ひげをたくわえた独特の風ぼう。演技派で個性的、シブかった。二年のNHK大河ドラマ「翔ぶが如く」では、薩摩藩士役と鹿児島弁を生かしてナレーター役も。多才だった。映画「天平の甍」中国ロケの時の見聞記「同志！僕に冷たいビールをくれ」は、昭和五十五年上半期ベストセラーの名文集。

本誌（昭和六十一年十月）でもこんな調子だ。「大好きなバァちゃんが死んでしまって鹿児島がひとつ遠のき、南洲神社の西郷サァの目の前まで車が乗り入れられるようになって、又遠のく。行きかうほとんどの人の『カライモ普通語化』に薩摩がどんどん遠ざかる。でも遠のく程、僕だけの鹿児島が近づいてくる。胸の奥のポケットの中で、キリリと立ち上がる」（丸）

―ふるさと話の散歩―より。

草野大悟公演記録（1961～1990）　1991年2月27日　51歳　逝去

年	月	演目
1961年（昭和36年）	4月	（文学座附属演劇研究所入所）
	9月	ジュリアス・シーザー 作・ウィリアム・シェイクスピア／演出・福田恆存 都市センターホール
1962年（昭和37年）	5月	光明皇后 作・有吉佐和子／演出・戌井市郎 都市センターホール
	6月	歴史のユーモリュス 作・ジャン・アヌイ／演出・中西由美 文学座アトリエ
	6月	続・の敵 作・三島由紀夫／演出・戌井市郎 日比谷ミュージックホール
	9月	ジークフリート 作・ジャン・ジロドゥ／演出・安堂信也 文学座アトリエ
	10月	守銭奴 作・モリエール／演出・芦田豊雄・戌井市郎 猫一生命ホール
1963年（昭和38年）	3月	日本の孤島 作／演出・小山祐士 猫一生命ホール
	6月	トスカ 作・ヴィクトリアン・サルドゥ／演出・戌井市郎 厚生年金会館ホール
	8月	調理室場 作・アーノルド・ウェスカー／演出・木村光一 猫一生命ホール
	11月	城 作・フランツ・カフカ／演出・加藤新吉 文学座アトリエ
1964年（昭和39年）	2月	マリヤへのお引き合わせ 作・ポール・クローデル／演出・安堂信也 文学座アトリエ
	3月	三人姉妹 作・アントン・チェーホフ／演出・戌井市郎 朝日生命ホール
	6月	荒野は車とともに 作・高見沢文江／演出・加藤新吉 文学座アトリエ
1965年（昭和40年）	1月	無言な接吻 作／演出・鎌倉匡 猫一生命ホール
	2月	怒りをこめてふり返れ 作・ジョン・オズボーン／演出・木村光一 紀伊國屋ホール
	10月	おり合 脚色・久保田万太郎／演出・戌井市郎 第勧会館ホール
1966年（昭和41年）	4月	（臣民に昇格）
	4月	山椒魚 作・木下順二／演出・木村光一 猫一生命ホール
	8月	犀 作・ウジェーヌ・イヨネスコ／演出・長岡輝子 紀伊國屋ホール
	11月	振り向かない男（以上文学座） 作・木谷茂生／演出・加藤新吉 文学座アトリエ
1967年（昭和42年）	6月	道化へヤックオフ（六月劇場） 作・長田弘／演出・津野海太郎 紀伊國屋ホール
	8月	（文学座を退座）
1968年（昭和43年）	6月	かもれら自身の黄金の都市（六月劇場） 作・アーノルド・ウェスカー／演出・津野海太郎 俳優座劇場
	12月	夜うつ太鼓（六月劇場） 作・ベルトルト・ブレヒト／演出・津野海太郎 紀伊國屋ホール
1969年（昭和44年）	8月	海賊版（六月劇場） 作・山元清多／演出・佐伯隆幸 紀伊國屋ホール
1970年（昭和45年）	9月	バーディ バーディ（演劇センター） 作・山元清多／演出・佐伯隆幸 自由劇場
1971年（昭和46年）		浪少女（江連 卓プロデュース） 作・江連 卓／演出・早野寿郎 厚生年金会館
1974年（昭和49年）		新・大阪城（自由座） 作／演出・朝比奈隆 梅田コマ劇場
1976年（昭和51年）	8月	盟三五大切（結城人形座） 作・鶴屋南北／演出・斎藤 満 結城人形座
1978年（昭和53年）	5月	もっと泣いてよ フランバー（オンシアター自由劇場） 作／演出・中田秀夫 自由劇場
	12月	寒鴉と老婆（オフィス日高） 作・ジョーゼフ・ケッサーリング／演出・日高 仁 博品劇場
1979年（昭和54年）	2月	ステージ・ドア（博品劇場） 作・エドナ・フォーバー／G.S.カウフマン／演出・日高 仁 博品劇場
1980年（昭和55年）	9月	バースデイ・パーティー（レ・キャンズ） 作・ハロルド・ピンター／演出・吉岩正晴 文学座・ル・ピリエ
	10月	青春期…検察官側の証人（スタジオ・ターボ） 作・アガサ・クリスティー／演出・市川 崑 西武劇場
1981年（昭和56年）	6月	バーレスク1931（スタジオ・ターボ） 作／演出・斎藤 満 西武劇場
	9月	花吹雪二人模様（新宿コマ劇場） 作／演出・大庭新行 新宿コマ劇場
	12月	度胸自慢時代小説（レクラム舎） 作・清水邦夫／演出・赤石武生 ジャンジャン
1982年（昭和57年）	6月	ねずみとり（スタジオ・ターボ） 作・アガサ・クリスティー／演出・高島春彦 西武劇場
	11月	東京発強盗（SATO制作部） 作・小松幹生／演出・赤石武生 アトリエ・フォンテーヌ
1983年（昭和58年）	1月	イカルガの祭り（本多劇場） 作／演出・斎藤 満 本多劇場（相談とし）
	7月～9月	オズの魔法使い（友友） 作・ライマン・F・バーム／演出・草野大悟 厚生年金会館大ホール 他
	12月	グレイクリスマス（本多劇場） 作・斎藤 満／演出・栗山民也 本多劇場（8時）1月中
1984年（昭和59年）	3月	タランチュラ（レクラム舎） 作・小松幹生／演出・赤石武生 三越ロイヤルシアター
	10月	のすかんぴおらん（ホンダスタジオ） 作・斎藤 満／演出・鎌田敏夫 銀座劇場（相談とし）
1985年（昭和60年）	12月	くたばれヤンキーズ（トレンド21） 作・ジョージ・アボット／ダグラス・ウォラップ／演出・鎌田敏夫 サンシャイン劇場
1986年（昭和61年）	2月	四十日目と百次郎（劇団四季） 作／演出・浅利慶太 本多劇場
	8月	証れての天使（劇団風姿） 作・遠藤 周子／演出・草野大悟／監 鵜飼 保 銀座劇場 札幌本多劇場（相談とし）
1988年（昭和63年）	3月	イェルマ（バルコ） 作・フェデリコ・ガルシア・ロルカ／演出・長岡輝子 スペースパート3
	8月	丘の上のハムレットの馬鹿（むうぶ・ぷん） 作・ウィリアム・シェイクスピア／演出・加藤 直 東京グローブ座
1989年（平成元年）	3月	ハムレット（むうぶ・ぷん） 作・ウィリアム・シェイクスピア／演出・加藤 直 シアターアプル
	9月	隅田川恩返隊（劇団俳優座） 作／演出・岡田英次 本多劇場 他
1990年	2月	近江源氏伝説（劇団セゾン劇場） 作・斎藤 満／演出・長岡輝子 銀座セゾン劇場
	9月	夏の盛りの蝉のように（松竹・俳の会） 作・吉永仁郎／演出・長岡輝子 サンシャイン劇場
	11月	東京学生演劇祭（劇団四季協会） 作・斎藤 満／演出・千田是也 東京国際劇場

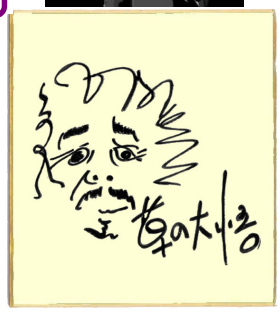


不可思議な涼夏の終りではありますが、さりとて、残暑お見舞い申しあげます。

五月には鹿児島にて、そして六月には東京で、二度も出版記念会を催していただき、まことにおくればせながら、心からお礼を申しあげます。小生にとりまして、生涯あるいはずもない信じがたいような出来事で、終れば夢のような数日間でありましたが、仕事の方は家政なく、心の整理をつけいとまもなく、平常心のとりかえしもつかぬままに、利益所に入りながら浮流者に、そして横浜の街をうろつく殺人鬼となり、また、文学を誘惑された老若男女、[illegible]

[illegible]

神を申し動かし、所の西の緊張と変化を、心身の緊張をほどいたに酒を飲むというごとあり、まえの生活に戻ってしまう。見がつくと夏の甲子園が終っておりました。

お礼を申しあげるのがこんなにおそくなってしまったことをお許し下さい。

大悟氏直筆の手紙